

## 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

第34回 来年1月開催 108団体エントリー  
マスク着用 ティスタンス1m

来年1月、3日間にわたって行われる第34回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストの打合せ会が11月27日行われました。今回は108団体がエントリーしていますが、コロナ前に比べて40団体ほど少なくなっています。

打合せ会では実施概要の説明ののち、出演順を決める抽選を行いました。高校は52団体と一日に収まり切れず、出演日を2日間に分けています。学校の公的な行事(入試等)でやむを得ぬ事情がある場合は、予め届け出ることによって優先的にどちらかの日程を選べますが、出演順位は選べず1番から順に当てられます。日程の指定に関しては打合せ会で出席者の承認を得て決定します。

2023年1月15日(日) 小・中学校の部

(久喜総合文化会館大ホール)

1月21日(土) 高校の部①、ユースの部

1月22日(日) ジュニアの部、高校の部②、レディーの部、  
一般の部 (響の森 桶川市民ホール)

## 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト <sup>スベック</sup> SVEC

このコンテストは1990年、少人数でのアンサンブルの美しさを求め、発表の機会を提供し、合唱愛好家の裾野を拡大しようという目的で始められました。当初はジュニア(小・中学校)、高校、一般の3部門に分かれていました。それが時代の変遷とともに細分化し、現在では、①小学校、②ジュニア、③中学校、④高校、⑤レディー、⑥ユース(大学を含む/構成メンバーの8割以上の年齢が17歳~30歳まで)、⑦一般(①~⑥に属さない団体)の7部門となっています。

演奏曲目、曲数は自由ですが、ア・カペラに限ります。また、打楽器の使用は不可、演奏時間は曲間を含めて6分以内。

コロナ対策として、指揮者も含め**不織布マスク着用**、立ち位置は**1m間隔の距離**に設置されたナンバープレートに限定。全員の体調管理シートをまとめて当日主催者に提出し、体調不良や発熱者がいないことを確認。表彰式は各団体3名まで入場できます。埼玉では今でもマスク着用が解禁されません。

## 録音音源による救済措置

当日体調不良や発熱者が出るなどの不測の事態に備えて、録音音源をホールで再生することによる出演を救済措置として考慮しています。したがって、事前に録音データを提出できるように準備しておきます。録音方法の詳細については後日送られてくる実施要項に記載されますが、基本的に複数の曲がある場合は連続して演奏することが求められるはずで

## 審査は単純総当たり方式

5名の審査員が100点満点で採点し、単純総当たり方式(ソフト)を用いて順位を決め、審査員の協議により金・銀・銅・優良賞を贈ります。さらに、埼玉県知事賞、埼玉教育委員会教育長賞、朝日新聞さいたま総局長賞、奨励賞を決めます。



## 第12回関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト

埼玉の上位団体の中から、来年3月開かれる関東大会(埼玉県和光市)出場の推薦団体を選出します。

ただ、埼玉と関東では開催規定にちがいがあり、ア・カペラは同じですが、音階を伴わなければ打楽器の使用が認められています。また演奏時間は7分以内と埼玉より1分長く設定されています。演奏時間が1分長いというのは、演奏する曲によってはかなり大きいことです。当然時間をオーバーすれば失格となり審査対象から外されてしまいます。

来年の埼玉大会は34回を迎えるのに対して、関東は12回目です。歴史としては埼玉より遅れて始まりました。全日本合唱連盟関東支部は茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・新潟・山梨・静岡の9県から構成され、それぞれの歴史が異なるためいろいろとちがいがみられています。

原稿をお寄せください

なかなか収まらないコロナ禍、苦しみながらも歌い続ける  
方々の声をお聞かせください。原稿をお待ちしています。